



# 双塔

カトリック新潟教会

2016年1月  
No. 332

## 今年はどんな年になるでしょう

主任司祭 ラウール・バラデス

あけましておめでとうございます。

去年の恵みに感謝しながら、今年を無事に過ごし、より良い一年になるよう願っています。

年の初めにあたり、いろいろと今年こそしたいこと、期待している人と出来事、それと少し不安もあるのではないのでしょうか。

私はいつも、このことばに励まされます。「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです」

私自身にとって「何もかも神に任せる」ことは簡単ではありません。それを書いた聖ペトロにも簡単ではなかったと思います。私たち人間は責任を持ってしっかりと与えられた人生を送らないといけない。それと同時に、「神に任せる」という態度、その生き方を学ぶ必要があるような気がします。

学生時代に、私は自分の幸せを築いていきながらも、自分の力では適えないことが山ほどあることを体験しました。そして、自分の幸せの道を開いていたつもりでしたが、実際には、先に私のために幸せへの道を開いてくださる方がおられると気がつきました。

幸福への道を歩むには、その道を設計した方に信頼していなければ、なかなか前に進むことができません。小さな事柄をはじめ、大事なことでも思い煩ってしまう私たちが辿り着くために、どうしても「信頼」を学ぶ必要があるでしょう。

聖エディット・シュタインが言われたように「わたしの計画に無かったものが、神の計画にはある。そんなことが起きるたび、わたしの信仰はいつそう強められ、確かなものになる。神の目から見れば、偶然など一つもない」

考えてみれば、最終的に神は人生の曲がりくねった線の上に乗っすぐな道を敷かれます。そうしたら、今年は上手くいかなくても上手くいくはずです。ドキドキしながらも神のご計画を確かめながら楽しい一年になると思います。神様が私たちのことを心にかけてくださるからです。

神の「いつくしみの特別聖年」の間、より深く、より具体的に神の導きを実感しながら、奉仕への呼びかけに応えることができるように祈っています。





## そよかぜ便り



### ■ 『いつくしみの特別聖年』開幕、扉開門ミサ、祈りのリレー 12月8日(火)、13日(日)

教皇フランシスコが定められた「いつくしみの特別聖年」は、2015年12月8日に、バチカンの聖ペトロ大聖堂の「聖なる扉」を開いて開幕した。新潟教会では、当日まで新潟近辺の司祭の黙想会が行われたこともあり、11時に「開幕ミサ」が20名を越す司祭の共同司式で捧げられ、近隣の小教区や鶴岡などから100名を越す信徒が集まった。

菊地司教様はお説教を「私たちは、御父のいつくしみに包まれていると感じ、暗闇に彷徨う人々に神の光を届けることができるように生きていきましょう」と結ばれた。

この日から、新潟教会を皮切りに「祈りのリレー」がスタート。新潟教会では、1月2日まで毎日少なくとも3人が当番で、教会や自宅で祈りを捧げる。翌3日からは秋田教会と続き、教区25の教会が行い、11月19日に佐渡教会で終了する。



また、13日9時半、「いつくしみの扉の開門」ミサが司教様の司式で捧げられた。センター1Fで、このために選ばれた福音と、教皇フランシスコの「いつくしみの特別聖年」公布の大勅書が朗読された後、聖堂の正面中央の扉の前まで行列、司教様によって扉が開かれた。ミサの終わりには、ローマの儀式書に従い、聖母の取次を願って「サルヴェ・レジナ」を全員で歌い、荘厳な祝福をもって閉祭となった。

新潟、高田、山形、秋田教会が「いつくしみの扉の教会」に指定され、聖年中に、巡礼指定教会でゆるしの秘跡、聖体拝領、教皇様の意向のための祈りを捧げることで、全免償が与えられる。

### ■ 待降節黙想会 テーマ:目が見えるようになりたいのです 12月12日(土)、13日(日)

板垣勤神父様(郡山教会)の指導による黙想会が2日間に亘って行われた。何不自由のない生活をしながら非行に走った子供が理由を問われ「うちには宗教がない」と言ったという逸話を紹介、人間が育つには土台となる宗教がなくてはならないと話された。ルカ18・36-43を朗読。生きる土台が“ナザレのイエス”であった盲人のように私たちは必死の叫びをあげ、単純に望みを言ったことはあるか、と問われた。そして、詩編27・7-8を朗読され、単純に望みを訴えて目が開いた盲人が初めて目にしたのはいつくしみに満ちたイエスの顔だったように、私たちも神のいつくしみそのものであるイエスの顔を見る望みがあると話された。最後に教皇フランシスコの『いつくしみの特別聖年のための祈り』を全員で唱えた。

翌日は、イエスに出会ったサマリアの女(ヨハネ4章)を取り上げ、教皇様が言われる「愛は抽象的なものではない」とおり、私たちもイエスに出会うことができると、前日に続いて強調され、最後に詩編23・6を朗読された。両日とも、ゆるしの秘跡が行われた。



### ■ 主の降誕 夜半ミサ ----- 12月24日(木) 20:00 -----

雪もなく、例年のない暖かな夜、菊地司教様の司式による主の降誕の夜半ミサが捧げられ、聖堂はたくさんの人々であふれた。

ミサ後は、クリスマスらしく「おめでとうございます!」、「お久しぶり」などの明るい声が交わされていた。

なお、ミサの説教はブログ『司教の日記』に全文掲載されています。

(<http://bishopkikuchi.cocolog-nifty.com/>)

---

**カトリック新潟教会 月刊「双塔」** 毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行 / カトリック新潟教会 教会運営委員会 広報部  
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通一番町 656 TEL : 025-222-5024 FAX : 025-222-5054 <http://www.niigatacathedral.org>

